

ふるさと歴史アラカルト

吉川経家弔魂碑

桜の季節になりましたが、横山地区を散策していると多くの石碑と出会います。今回はその中から、横山二丁目にある吉川経家弔魂碑（以下、弔魂碑）の建設経緯について紹介します。経家は16世紀後半、吉川元春に従って活躍した武将です。鳥取城籠城戦では城主として、自らの命と引き換えに城兵の命を救ったことで知られています。

弔魂碑の建設は、昭和13（1938）年12月頃から検討され始め、吉川経家忠烈顕彰会が結成されました。同会長には永田新之允岩国町長が就き、発起人には岩国出身および縁のある人物など82人が名を連ねました。

永田は同年12月10日、岩国町役場において発起人協議会を開催し、意見聴取を行いました。会議の場では、田岡勝太郎海軍少将など軍人から、部下を助けるために敵に降伏することは軍人精神に背く行為であるなど、建設に対する否定的な意見が出ました。

こうした思想に関わる問題も含めて議論を尽くし、同年12月15日に吉川経

家忠烈顕彰会による趣意書が出されました。建設の目的には、経家の顕彰は当然のことながら、日中戦争開戦以降の総力戦に向けて、建設の寄付を通じて町民の心を一つの目的へ集める、という内容も加えられるなど建設への理解を得るための苦慮が垣間見えます。

翌14年5月から建設のための寄付金の募集を開始しました。また重田栄治菊元商行社長の所有地が、江戸時代に経家の子孫の屋敷地であったため、建設場所として寄付を受けました。さらに、建設資材の一部は鳥取市から取り寄せました。

こうして、寄付金総額4580円（現在の相場で約800万円）が集まり、弔魂碑は完成しました。除幕式は経家の命日にあたる10月25日に行われました。吉川経家忠烈顕彰会^{*}は、弔魂碑建設後に解散し、弔魂碑は岩国保勝会へ移管されました。

普段何気なく目にする石碑を調べてみると、歴史的な経緯が分かり、大変興味深いです。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

※錦帯橋の保護を中心に岩国の景勝の保存と積極的な美化を目的として、1912年に財団法人として設立された後、1966年に解散し、岩国市観光協会に吸収された



吉川経家弔魂碑



吉川経家碑表建設一件
（岩国徴古館蔵）

岩国市 人口・世帯

人口 131,844人【前月比 -208人】 男性 62,680人 女性 69,164人

世帯 65,556世帯【前月比 -46世帯】 ※外国人人口を含む(2021年3月1日現在)

交通事故発生件数

2月分事故件数 16件(31件) 死者数 1人(3人) 傷者数 17人(33人)

※高速道路発生分を除く。()内は2021年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337